

レスラー

映画の中の精神医学

小澤 寛樹 ⑩

今回はストレスの話です。映画は米映画の「レスラー」。バブル期に大人の退廃的な愛の形を描いた「ナイン・ハーフ」で有名なミック・ローグが10年ぶりに主演し、見事、第62回ベネチア国際映画祭金獅子賞に選ばれた作品です。ブルー・スプリングステーションの主題歌が流く、男くさい作品に仕上がっています。

20年前は人気レスラーだったランディ（ローグ）は今ではガレージで寝泊まりするくらいに、すっかり落ちぶれています。スーパーの食品売り場のアルバイトで生計を立てながら、週末のリングに上がる日々。しかし、そのオフアームも少なくなり、自分の限界を意識するようになります。最愛の娘との仲もうまく

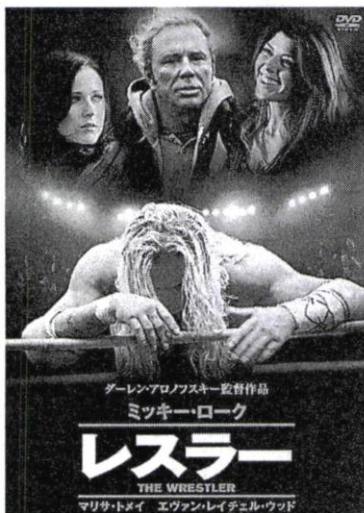
身体疾患とストレスを描いた

「レスラー」(2008)

いかず、孤独な生活。長年の筋肉増強剤使用のため心臓に発作を起こし、医者からレスラーをやめるよう告げられますが…

ストレスのない人生はありません。人生最大のストレスは恐らく母親のおなかの中から出てくる時かもしれません。精神的のみならず、身体的なストレスがあります。

ランディは筋肉増強のためステロイドホルモンを打ちますが、人間の体はストレスがかかると、副腎から炎症を抑え、免疫を制御する作用のあるステロイドホルモン（副腎皮質ホルモン）を放出し、短期的に対応し



「レスラー」のDVDジャケット（ハビネットから販売中）

分類し簡単なものから対応

- 身体疾患とストレスに関する推薦映画
- ▽「デュエット・フォー・ワン」(1986年・米国)
 - ▽「フィラデルフィア」(1993年・米国)
 - ▽「イン・アメリカ」(2003年・アイルランド、英国)
 - ▽「潜水服は蝶の夢を見る」(2007年・フランス)

ストレスへの対処を整理する表

	自分がコントロール	
	できる ←	→ できない
易 ↑	I	III
↓ 難	II	IV

と、免疫力が低下し、動脈硬化を促進、脳細胞を一部死滅させます。

ちなみにストレスへの対処法と、その人の性格・特性に関連があるという考え方があります。例えばストレスにすぐに対応し、時間に追われるように仕事をし、声が大きく、競争心が強く、同時平行的に物事をこなす傾向を「タイプA (angina) 狭心症性格」と言い、狭心症、心筋梗塞になりやすい特徴があります。一方、怒りをあまり表に出さず、内省的な傾向を「タイプC (cancer) がん性格」と言い、がんになりやすいといわれています。

では、ストレスとの付き合い方とはどんなものでしょう。私流ですが、まず紙に自分が感じているストレスを10個書き上げ、①

自分でコントロールできるものとできないものの難しものと簡単なものを分類（図参照）。I→II→III→IVの順に対応しますが、IVについては時間が解決してくれるのを待ちます。

映画で、ランディは誇り高き男として生きることを選択します。男のロマンを感じるころですが、女性は愚かで軽率なこと思ってもいいかもしれません。どんな人生においても、人は自分のメインストリームから降りる時があります。しかし、これがなかなかできません。ものすごく恐ろしく、とても勇気がいることだからです。しかし、新たな希望もそこにはあるのです。

（長崎大学院医歯薬学総合研究科精神神経科学教授）

長崎大精神神経科学教室のホームページのアドレスは、<http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/psychtry/>